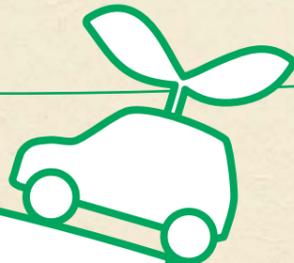




OBUYASHI
ROAD

大林道路株式会社

CSR 報告書 2010



企業理念

～大林道路からのお約束～

3つのテーマからなる、大林道路の企業理念をご紹介します。

豊かな生活環境の創造に向けて

社会基盤、産業基盤、生活基盤等において、安全で、快適で豊かな環境を創造し、サービスを提供することにより、人々に真の満足を与え、生活の向上と社会の発展に貢献します。

地域社会と共に歩み

企業行動を営むそれぞれの地域社会において、事業を通じ、また、その地域の一員として溶け込み、地域社会の発展に尽くします。

人間尊重の経営を行います

従業員一人ひとりの個性を生かし、誇りと働きがい、生きがいのある場を提供し、また、当社と関係のある全ての人々が幸せとなることを願い行動します。

私たち大林道路は3つのテーマで構成された企業理念に基づいて事業活動を行ってまいりました。これらのテーマは、皆さまの生活に密着した製品を提供し、地域社会の歴史を創造するためのお手伝いをさせていただくために必要不可欠なものだと考えております。

「CSR報告書2010」では、私たちが今までどのようにこの企業理念に向かって取り組んできたかをお伝えします。内容を通じて、大林道路のCSRに対する考え方をご理解いただけるのではないかと思います。

Contents

—目次—

企業理念／目次・編集方針	1
トップコミットメント／ CSR 推進の枠組み	2
特集 2009年8月 東名高速道路 地震災害復旧報告	3
コーポレート・ガバナンス／ コンプライアンス	4

豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供	5
価値ある情報の提供	6

地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築	7
地球環境への配慮・環境方針／ シリーズ 大林道路の技術“育む”	8

人間尊重の経営を行います

安全衛生方針	9
人材育成・職場環境	10

大林道路の事業	11
CSRに関する用語解説・事業所一覧	12

編集方針

大林道路では、昨年度よりCSR報告書を発行しています。この報告書では、ステークホルダーの皆さまに私たちの日々の取り組みをできるだけわかりやすくお伝えできるよう心がけ、会社の活動状況をまとめています。

●対象期間

2009年4月から2010年3月までの活動を中心に報告しています。ただし、一部それ以前からの取り組みや直近の活動報告も含まれています。

●発行時期

2010年10月（次回は2011年10月を予定）

●お問い合わせ先

大林道路株式会社 本店総務部 総務課
〒131-8540 東京都墨田区堤通1-19-9
リバーサイド隅田セントラルタワー 5階
TEL：03-3618-6500
FAX：03-3618-6597



トップコミットメント



社会からの高い信頼と評価を得られるよう努めていきます。

当社のCSR活動は、2008年に創立75周年を迎えたのを機に、原点に立ち返って企業活動全体を検証することから本格的にスタートしました。そして、企業理念に基づき行動し、社会的な責任を果たしていくことがCSR活動の根幹であり、ステークホルダーの皆さまに対し誠意ある企業活動を行う第一歩と考えています。

本年2月には初めての「CSR報告書2009」を発行しました。そして2回目の「CSR報告書2010」においても当社の掲げる企業理念に向かい、私たちがどのような取り組みを行ってきたかをお伝えしています。

昨年8月、駿河湾を震源とする地震により東名高速道路の路面・法面などが一部崩壊し通行止めとなりました。当社は、その応急復旧工事に係る緊急応援要請に応え、復旧工事に携わり早期の交通解放に寄与しました。本業を通じての社会貢献の一つかと思えます。

この他にも、冬期の路面凍結を抑制させる技術、「保水性舗装」や「遮熱性舗装」といったヒートアイラン

ド現象を抑制する技術、土壌の汚染調査や汚染土の処理、低炭素社会の実現に向けた技術の研究等々を行っています。それら時代時代のニーズに対応していくことは、「人々（社会）の期待に応え、時代を先取りした技術により、新たな価値を創る」という当社の経営規範とまさしく合致する内容であり、今後それをさらに推し進め、社会からの高い信頼と評価を得られるよう努めていきます。

CSR（企業の社会的責任）とは、企業が事業活動を通じて、経済・環境・社会等の幅広い分野において社会的な課題を解決しその責任を果たすことにより、持続可能な社会の発展に貢献していくこととされています。今後とも全社一丸となりCSRへの取り組みを積極的に推進し、社会から必要とされる企業として評価していただけるよう努めていく所存でございます。

2010年10月

取締役社長 石井哲夫

<経営規範>

1. 人々の期待に応え、時代を先取りした技術力により、新たな価値を創ります。
2. 創造力豊かな人を育て、柔軟な組織のもとで、生き生きとした職場を創ります。
3. 良き企業市民として、社会と文化に寄与します。

CSR推進の枠組み

大林道路のCSRは、
企業理念を常に念頭に置き

- 豊かな生活環境の創造
 - 地域社会との共生
 - 人間尊重の経営
- の実現を目指すことです。

大林道路のCSR活動に必要な第一歩とは
「ステークホルダーに対する誠意ある企業活動」

であると考えています。

大林道路のCSR活動はコンプライアンスを基本とし、これまでの企業活動に加えて説明責任や情報開示を企業自らの意思で行い、地域社会への積極的な働きかけを行うことが大切であると思えます。

CSRに必要な5つの約束

ルールやプロセスを大切にする企業になることをお約束します

- ①経営者が率先垂範してコンプライアンスを企業風土に定着させます。
- ②階層別、部門別にコンプライアンス教育を計画的に実施します。
- ③コンプライアンスを行動基準に照らし合わせ、定期的にチェックします。

付加価値の高いものづくりができる企業になることをお約束します

- ①「安全」「原価」「品質」に関する管理の手順をチェックし、継続的改善を行います。
- ②長年培った経験を基に、創意工夫を行います。
- ③作業所、プラントの周辺の環境に配慮し、施工、製造プロセスを大切にします。

社会から愛される企業になることをお約束します

- ①地域の「安全」「安心」を大切にします。
- ②地域住民とのふれあいを大切にします。
- ③地域の環境美化・環境保全に努めます。

環境に配慮する企業になることをお約束します

- ①3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底します。
- ②CO₂の排出量削減に努力します。
- ③環境保全活動に積極的に取り組みます。

従業員が安心して働ける企業になることをお約束します

- ①「安全」で「働きやすい」職場づくりを目指します。
- ②人材の育成プランを示します。
- ③仕事の成果に誠意をもって応えます。



2009年8月 東名高速道路 地震災害復旧報告

大林道路は自然災害などで高速道路が走行不能となったとき、速やかに復旧対応できる体制を整えています。一例として、2009年に起きた東名高速道路の災害復旧の事例を紹介します。



法面崩壊状況

【緊急報告】東名復旧までの115時間より

- 2009年8月11日 午前5時7分 地震(震度6弱)発生
- ◆震源地 駿河湾(北緯34.5度、東経138.3度)
- ◆震源の深さ 23Km
- ◆地震の規模 マグニチュード6.5(暫定値)
- ◆最大震度 6弱(静岡県伊豆市、焼津市、牧之原市、御前崎市)

NEXCO中日本の対応

- 5:08 東京IC～豊川IC間 順次通行止
- 6:17 牧ノ原SA付近 法面崩壊現場確認
- 9:00 東京IC～富士IC間(上下線) 通行止解除
- 10:00 袋井IC～豊川IC間(上下線) 通行止解除
- 11:40 富士IC～静岡IC間(上下線) 通行止解除
- 13:30 菊川IC～袋井IC間(下り線) 通行止解除
- 14:00 法面崩壊現場 応急復旧工事着手
- 16:00 【記者会見】 工事完了8/13 0:00と発表

- 11:20 《大臣コメント》 帰省混雑時期のため、被害の少ない下り線を本日に交通解除する。
- 23:00 【記者発表】 下り線全線、焼津IC～静岡IC間(上り線) 通行止解除8/13 0:00と発表

- 0:00 焼津IC～静岡IC間(上り線) 通行止解除
- 静岡IC～菊川IC間(下り線) 通行止解除
- 下り線全線通行止解除
- 11:00 【記者会見】 第2回工法変更 工事完了8/15中見込と発表

- 22:00 【記者発表】 通行止全線解除 8/16 0:00と発表

- 0:00 袋井IC～焼津IC間(上り線) 通行止解除
- 地震の影響による東名高速道路の通行止はすべて解除

8.11

- 7:00 NEXCO 中日本から要請：菊川橋・牛淵橋 段差補修
- 10:00 菊川橋・牛淵橋 舗装復旧開始
- 14:00 要請：下り線 189.5KP 付近 沈下箇所 L=180m 舗装補修



8月11日深夜 下り線 189.5KP 付近 舗装補修作業状況

8.12

- 7:00 下り線 189.5KP 付近 舗装補修作業完了
- 14:00 要請：上り線 工事車両通行のための交通整理員の配置
- 要請：8/13 下り線 開放のための交通整理員の配置
- 15:00 要請：下り線 191.6KP 付近 沈下・ひび割れ箇所 舗装補修
- 16:00 下り線 191.6KP 付近 舗装補修開始
- 23:00 交通整理員 作業開始
- 23:00 下り線 191.6KP 付近 舗装補修完了

8.13

- 12:00 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧8/14 10:00～(予定) 連絡



8.14

- 8:00 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧 現地調査開始
- 17:00 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧班 現地待機開始
- 18:00 上り線 191.6KP 付近 舗装切断開始
- 18:30 上り線 191.6KP 付近 舗装切断一時中断 現地待機
- 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧班 現地待機継続



8月15日 上り線 191.6KP 付近 舗装補修作業状況

8.15

- 14:30 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧開始
- 21:30 上り線 191.6KP 付近 舗装復旧完了

8.16

- 0:00 上り線 通行止解除
- 盛土法面崩落箇所 路面監視業務 2名 24時間体制
- 機械・施工班 緊急時対応のため待機
- 8/18 水処理用アスカーブ設置
- 8/20 路面排水用パイプ、土のう設置



上り線 191.6KP 付近 通行止解除

8.24

- 9:00 路面監視、作業待機 解除

大林道路の対応



東川副所長 (災害復旧)

地震発生直後は橋梁部の段差補修の依頼のみで、作業は速やかに対応し一段落したと考えていたが、崩落箇所へ行き災害の大きさを実感した。この緊急事態に、NEXCO職員、施工業者の柔軟で迅速な対応には感心させられた。無理なお願いにも対応していただいた協力業者各社には大変感謝しております。



水谷工事長 (災害復旧)

夏期休暇中のお盆の炎天下での発注者・当社・協力業者がみな24時間体制で、一刻も早い開通を目指す大変な業務でした。一般道も交通集中により大渋滞で作業にもかなり影響しましたが、一般の方から感謝の声が寄せられたと聞いて、間に合うように頑張った本当に良かったと思いました。



村上主任 (災害復旧)

復旧工事は状況が激しく変化しましたが、NEXCOからの依頼に対し常に対応できるよう現地で待機していました。マスコミでこの復旧作業が大きく報道されていることを知り、東名高速という交通の大動脈を維持することの重要性を再認識しました。



徳永職員 (路面監視)

万一の事態を考え、復旧後2週間現地の監視業務を依頼されました。地形変化測定用のセンサーを設置するとともに、舗装に精通した当社職員の目で異常を検知してほしいとのことでした。地味な業務でしたが、よい経験が出来ました。

災害復旧班

- 中部支店** 斉藤副支店長、青木部長、有賀副部長
- 静岡営業所** 副島所長、東川副所長、佐藤副所長、水谷工事長、田崎工事長、明石主任、村上主任、桑原職員、藤本職員
- 応援** 古川主任(浜松)、斉藤主任(尾張)、坂入職員(尾張)、宮元職員(三河)

路面監視班

- 静岡営業所** 徳永職員、山本職員
- 応援** 斉藤主任(尾張)、前田職員(三河)



中日本高速道路株式会社からの感謝状



コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

経営の透明性、健全性を高めるために

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスを基盤とする経営を行っています。

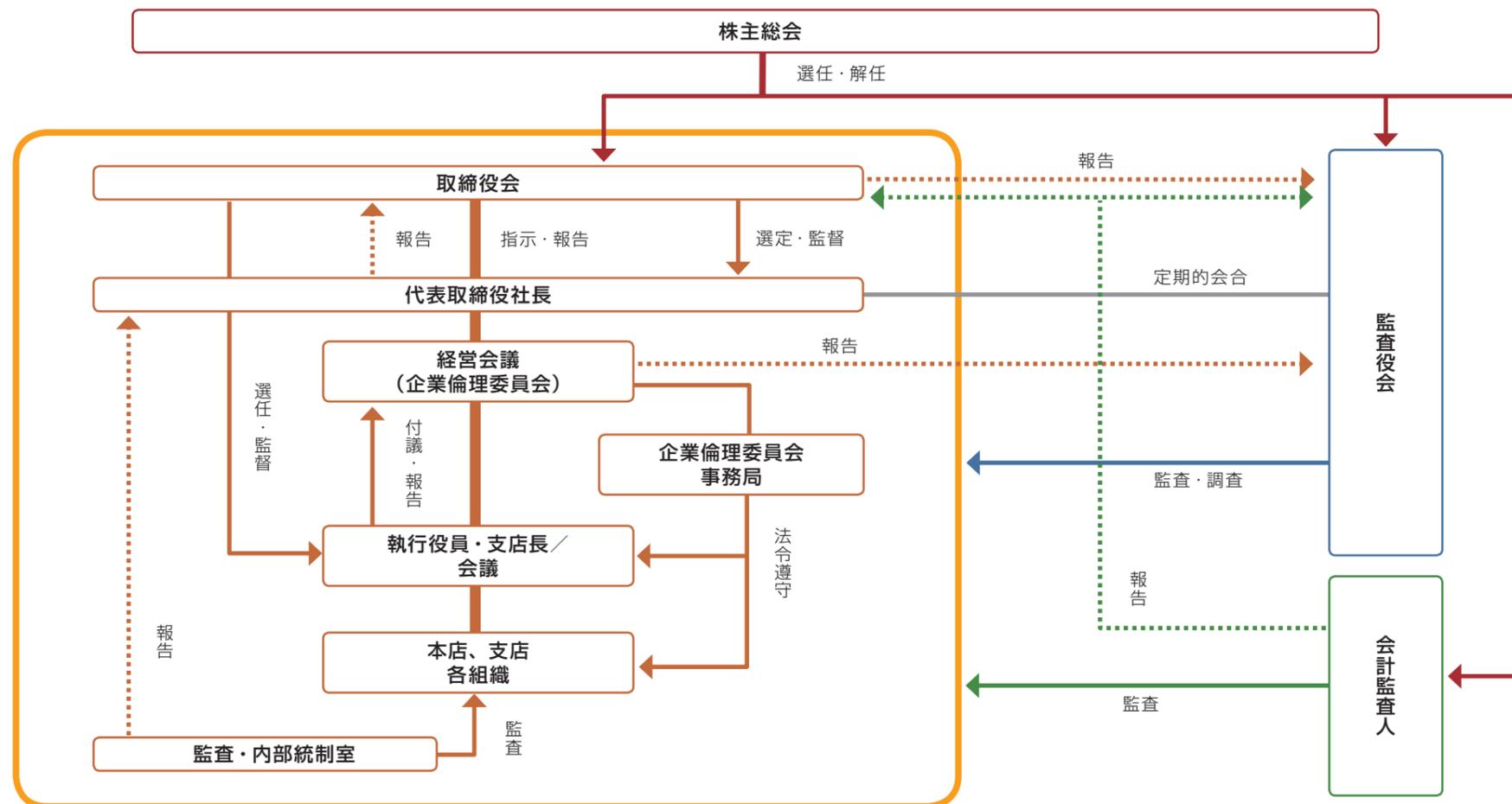
コーポレートガバナンス体制

大林道路は、コーポレート・ガバナンスを通じて内部統制をしていくことがコンプライアンス経営の根幹であり、健全な企業として発展していく上で不可欠な要素であると考えています。

その考えのもと、正しい経営判断を行い、実行できるよう、取締役会、経営会議、企業倫理委員会などで十分審議し、適宜、監査役会に報告し、適切な監査を受けています。

また、企業会計については、独自の立場である会計監査人から監査を受けています。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制体制

- 内部監査担当部署による各部門の業務執行状況、コンプライアンスおよび財務報告に係わる内部統制システムの監査を定期的に行っています。2009年度は、本店を含む全店において実地監査を行いました。

情報管理体制

- 情報資産のセキュリティに関する基本方針を定め、緊急事態の発生に備えた予防対策を講じています。
- 個人情報取扱規程を整備、運用し、個人情報を適正に取り扱っています。
- 経営の重要事実に関して情報管理を行い、不正な取引が行われぬようインサイダー取引防止規程を整備、運用しています。

危機管理体制

- 危機管理対策規程を整備、運用し、危機を未然に防ぐとともに、万一発生した場合にも迅速かつ適切な対応ができるよう対策をとっています。
- BCP (事業継続計画) を策定し、自然災害など、予期せぬ事態が発生した時にも、事業が継続できるよう対策をとっています。2009年度の震災対策訓練では、災害時の事業継続に備えた初動体制の確立と連絡体制の確認に重点をおいた訓練を行いました。

コンプライアンス

- 企業倫理遵守のための基本方針を策定し、定期的に企業倫理委員会を開催することで、企業倫理遵守の徹底を図っています。2009年度は、10回の委員会を開催しました。
- 経営の健全化を目的として、内部通報制度を設けています。
- 毎年3月、役員、支店長、本店部室長を対象とした「外部講師によるコンプライアンス研修」を実施しています。2009年度は、「建設業におけるコンプライアンス全般」と題し、弁護士による研修を行いました。

品質管理体制、環境管理体制

- ISO9001に基づく品質マネジメントシステム体制を確立し、「改善」に努め、お客様に満足いただける製品の提供に努めています。
- ISO14001に基づく環境マネジメントシステム体制を確立し、地球そしてそこに暮らす人々に思いやりのある活動を実施しています。



豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供

方針に基づき、高い品質を確保します

大林道路の品質の維持・向上への取り組みとその成果をご紹介します。

品質方針

私たちは確かなものづくりにより顧客・社会からの信頼に応えます。

- ①顧客・社会からの要求に対する迅速な対応
- ②人材育成および業務の継続的改善に努め確かな技術製品に反映

品質確保

アスファルト混合物事前審査制度

アスファルト混合物事前審査制度とは、アスファルト混合所から出荷されるアスファルト混合物を第三者機関が事前に審査・認定することにより、従来実施されていた工事ごと、混合物ごとの基準試験（配合設計を含む）や試験練り等の省略が認められるという制度です。

この制度では、発注者・施工者・混合物製造者のそれぞれにおける業務の合理化や省力化を図るだけでなく、混合所の計画的な自主管理を促し、安定した品質の確保と管理技術の向上を目的としております。

当社におきましてもこの制度を導入し、日々よりよい製品の提供と迅速な対応を心がけております。



大林組環境大賞・地域貢献賞を受賞

大林組は、環境活動に対する社員の意識の高揚を図り、積極的な参加を推進することを目的に、昨年度から優秀な環境活動を表彰する「大林組環境大賞」を立ち上げ、「大林組環境大会」にて表彰式、事例発表会などを行っています。第2回となった今年度は、表彰の対象をグループ会社全体に拡大し、多くの候補の中から当社中国支店備前営業所の「カブトムシの幼虫の小学校への寄贈」が地域貢献賞を受賞いたしました。当社が受注した国道2号岡山東部保守工事において、刈り取った雑草廃材を腐葉土化し農業用の肥料として地域の農家などに無償で提供、またその腐葉土の中に発生したカブトムシの幼虫を子供たちの教材として地元小学校等に寄贈した継続的な活動が、資源循環や生物多様性に関わる地域貢献として評価されました。

「大林組環境大賞」は、優れた環境活動を評価して表彰するものであり、受賞は社会的責任を果たしていることの証ともなります。



大林組白石社長と記念写真（前右列端が小井住主任）



6月1日の表彰式の様子



事例を発表する小井住工事主任

日本管路更生工法品質確保協会より表彰

日本管路更生工法品質確保協会では、平成19年4月、管路更生の統一した資料「管路更生工法 技術者研修会必修テキスト」を発刊し、研修会を全国で開催しています。協会活動の推進にあたり、当社を含む6社が多大な貢献をしたとして、協会より表彰を受けました。

全国で下水道工事が進み、下水道人口普及率が90%の現在、耐用年数が50年経過した管路が増えています。老朽化・耐震対策が必要となっています。

管更生工法は工事期間が短く、土の掘り返しが無いため、周辺の住民の方に負担が少なく済むので、今後も推進していきます。



品質向上

情報化施工研修会

平成20年度より、情報化施工に対応できる技術者の育成を目的として、情報化施工の実務研修会を、現場の最前線で活躍している若年・中堅（入社4年～10年）の土木技術者を中心に、年1回実施しています。

毎年約30名が、情報化施工の基礎知識、マシンコントロールに必要な設計データの作成方法・機材の取り扱い、出来形管理要領等の知識を習得しています。今後も継続的に研修会を実施していきます。



設計データの作成実習



情報化施工仕様ブルドーザの説明

路面切削機の情報化施工について

新たな試みとして、路面切削機の切削深さの自動制御に情報化施工機材を適用し、その施工精度について検証しました。試験施工の結果から、従来の施工方法と同等以上の施工精度が得られることが確認でき、路面切削機の情報化施工が十分可能であることが確認できました。

今後さまざまな分野にICT（情報通信技術）の活用を推進していきます。



情報化施工機材を搭載した路面切削機の施工状況

施工技術発表会

11月10日、墨田区曳舟文化センターにて施工技術発表会を約110名が参加して開催しました。

今回は、「創・巧・趣～環境と調和する技術を目指して～」をメインテーマに、当社全店、東洋パイプリノバート、フォレストコンサルタントから応募された42編の報文から「創意工夫の水平展開」「新しい技術の実績の伝達」「技術営業力」の3つのカテゴリーに分けた17編の発表を行いました。また、外部から環境負荷の軽減に先進的な取り組みをしているトプコン、日工、東洋工業の3社にも技術発表をいただき、より有意義なものとなりました。



価値ある情報の提供

お客様にご満足いただくために

大林道路はさまざまな機会を通じて、「価値ある情報」を提供しています。

CSR報告書2009

平成22年2月16日に「CSR報告書2009」を発表しました。それに合わせ、ホームページにもタグをつくり、掲載しました。

表紙には2009年8月に駿河湾沖で発生した地震により崩落した東名高速道路の写真を掲載しました。今回の「CSR報告書2010」では復旧工事の様子を特集で掲載しています。

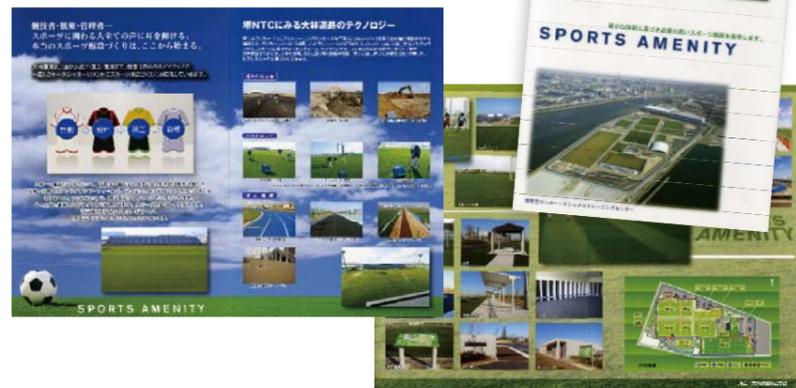


<http://www.obayashi-road.co.jp/company/csr.html>

SPORTS AMENITY

大林道路は道路だけでなく、さまざまなスポーツ施設も手がけています。「計画→設計→施工→管理」まで、創造性あふれるアイデアと一貫したトータルマネジメントでスポーツ施設づくりにお答えします。

この度、総面積32.3haという日本最大級の施設規模を有する「堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター」を施工しました。



メロディグルーピング

メロディグルーピングは道路の横方向にいくつかの溝をつくり、その間隔を変えることで、タイヤの接触による周波数を変化させ音階を発生させます。

舗装とタイヤのコラボレーションによりメロディを奏でる工法です。観光地などでのドライブをより楽しく、運転のストレスを和らげます。



オーククレーS「どんぐり公園」

墨田区のどんぐり公園は幼稚園やマンションに囲まれた公園です。幼稚園の裏庭にもあたり、さまざまな遊具が設置されています。

小さな子ども達の利用が多いので、転んでもけがの少ない『土系舗装』が施工されました。

施工後、現地に行ってみるとお母さんに連れられたお子さんが元気に遊んでいました。

『土系舗装』は、真夏の路面温度が上がりにくいので、ヒートアイランド対策にもつながります。



技術提案

さまざまな社会空間のニーズに合わせ、技術提案を行っております。大林道路が提供できる技術を中心に、提案書・図面・完成予想図など、ご要望に合わせてご提案しております。

●都市型浸水被害対策として地下貯留槽のご提案

近年、市街化による都市型浸水被害が多数発生しています。この対策として大林道路は、雨水の流出抑制を目的に地下貯留槽をご提案します。

地下貯留槽は掘削して設けた空間に保護シート・遮水シートを敷き、その中にプラスチックの滞水材を設置して水を貯留するものです。水資源の有効活用にも最適です。



●冬期路面对策として凍結抑制舗装のご提案

冬期における道路交通安全の対策としてさまざまなアプローチが試みられています。大林道路は、長年にわたりゴム粒子を用いたさまざまな「凍結抑制舗装」を研究開発してきました。その中でも最も多くの機能（凍結抑制機能・低騒音機能・排水機能）を兼ね備えた「ゴム粒子入り多機能舗装（オークサイレント）」をご提案します。



凍結抑制舗装のイメージ



施工状況



凍結抑制効果の事例



地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築

各種活動で地域に貢献します

大林道路は、良き企業市民として社会文化の発展に寄与していきます。

●中国支店

台風18号中の巡回

台風接近前後において、地域住民の利用する道路を巡回し、通行の安全に努めました。



●北信越支店

コマツナギの播種作業に参加

自然環境保全を目的に、ミヤマシジミ（絶滅危惧Ⅱ類に指定されている蝶）の食草である「コマツナギ」の播種作業に地域住民の方々と共に参加しました。



●北海道支店

植林事業への貢献

札幌市内の工事現場において、リース代金の5%が植林事業に寄付される木製型枠安全掲示板を使用しました。



●大阪支店

道路標識等の清掃を実施

一般の方が少しでも分かりやすく安全に走行できるよう、道路標識やカーブミラーを清掃しました。



●中部支店

地域住民の方々に現場見学会を実施

地域住民の方々を対象に、工事の見学・現場説明を行いました。



●東北支店

近隣道路の月1回の清掃活動

工事期間中、月1回のボランティア清掃活動を行いました。また、通学している小学生の交通安全を目的として交差点での誘導も併せて行いました。



●九州支店

口蹄疫被害に対し義援金を贈呈

口蹄疫の発生により被害を受けた農家に対する支援を行うため、義援金を宮崎県児湯郡新富町に贈呈しました。



●四国支店

地元のお祭りに参加

無形民族文化財に指定されている「ひょうげ祭り（高松市香川町）」に参加しました。
“ひょうげ”とは「おどけた」「こっけいな」という意味の方言であり、水の恵みに感謝し、豊作を祝うお祭りのことです。



子育て中のツバメの保護

工事区間のトンネル内にツバメが巣作りをはじめました。野生動物保護のため、重機や資材を速やかに移動させ作業中も刺激しないように徹底し、巣から落ちた雛を巣に戻すなど、巣立ちまで見守りました。



●関東支店

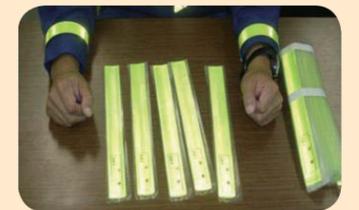
保育園児による落書き大会の実施

楽しい思い出の一つになればと、普段落書きをすることのない舗装路面に思う存分絵を描くイベントを行いました。



小学生の安全確保のため反射バンドを配布

工事区間が小学生の通学路になっていることから、小学生全員に安全確保のため「反射バンド」を配布しました。



地球環境への配慮・環境方針

地球環境保全に取り組んでいます

地球環境に対し、大林道路はどのように貢献できるのか。常に考え、実践しています。

環境方針

私達は地球を汚染から守るため環境経営に取り組めます。

- ①「もったいない」気持ちを大切に資源の有効利用
- ②当社の環境技術により住みたい街づくりに貢献

環境技術への取り組み

便利で豊かな現代社会。私たちはこの環境を未来に引き継いでいかなければなりません。

大林道路は道づくり・街づくりを通じて地球温暖化や資源の枯渇などさまざまな環境問題に向きあってきました。

人と自然が調和する、安全で快適な生活環境を継続的に提供するさまざまな技術で、皆さまのお役に立てると確信しています。

環境目標等に対する監視結果

私たちは環境方針に基づき、環境目標を定め、日々監視測定に努めています。

1. アスファルト合材を1t製造するのに係る重油量

	2008年度	2009年度
重油使用量 目標値：9.0ℓ/t	8.9ℓ/t	8.8ℓ/t

2. 事務用品に占める環境商品率

	2008年度	2009年度
事務用品に占める環境商品率 目標：前年より環境商品占有率を高める	86.9%	86.9%

3. コピー用紙使用量

	2008年度	2009年度
コピー用紙使用量（監視測定のみ）	4,065千枚	3,356千枚

4. エネルギー総使用量

	2009年度
エネルギー総使用量（原油換算）（監視測定のみ）	34,359kl

※「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく測定値

バイオ燃料の使用

11月26日、当社が国土交通省より受注している国道の舗装工事において、舗装用重機（アスファルトフィニッシャー、ロードローラ、タイヤローラ）の燃料を従来の軽油に替えてバイオ燃料を使い二酸化炭素の排出量を軽減する試みを行いました。バス・船舶等に多く使用実績があるバイオ燃料ですが、舗装機械に使用した事例は未だ少ない現状にあります。使用したバイオ燃料は近郊地域で発生する廃食用油です。軽油2,095ℓを節減することで約5.5tの二酸化炭素排出が抑えられたと考えています。



バイオ燃料の生成
(廃油からバイオ燃料・BDFへ)



バイオ燃料使用のステッカー



施工の様子

環境と地域社会への配慮

アスファルト混合所における環境対策

●四国支店 阿讃アスコン

阿讃アスコンでは防音壁や中和消臭装置の設置、合材サイロのスキップエレベーターにカバーを付ける等の防音・防臭・防塵といった環境対策を推進しました。同時に近隣の皆様には私共の取り組みに対する説明を十分にお聞きいただき、ご理解を頂戴することができました。今後も大林道路のアスファルト混合所では積極的に環境と地域社会にやさしい混合所の運営に努めていきます。



阿讃アスコン（対策前）



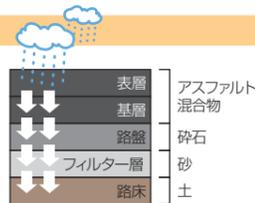
阿讃アスコン（対策後）

シリーズ 大林道路の技術“育む”

水を育む

●オークスルー

透水性のアスファルト舗装です。舗装体内に雨水が浸透し、ポーラスアスコン層および砕石路盤を経て路床へ浸透する構造で、地下水の涵養の他、排水設備への流出量を減じる雨水流出抑制効果などが期待できます。



●地下貯水工法

雨水を地下に貯留し、排水路への流出を抑制するとともに、貯留した水を植栽の灌水などに有効に活用する工法です。地中に砕石やプラスチック排水材などの中詰め材を充填し、その空隙に水を貯水するシステムです。



●管更生工法

既設の下水道管、樋管や工場排水管等を非開削でリニューアルする環境に優しい工法です。管の種類や劣化の度合いに応じた最適な工法を用意しています。



土と緑を育む

●オーククレイシリーズ

砂質土と現地発生土や購入土を骨材に用いた、自然土の色や風合いを有する土系舗装です。骨材に無機系固化材と特殊添加剤を混合して固化させた路面は、歩行者の実用に適した強度と弾力性があり、さらに透水性もあります。



●打ち水グラスパーク

ブロック型緑化舗装に自動灌水システムを組み合わせた新たな緑化舗装システムです。路面を緑化する芝の良好な生育を助け、夏季の路面温度の低減にも優れた性能を有しています。



●グリーンキューブライト

点滴パイプ、特殊導水シートを採用し、均一性の高い土壌灌水を実現した工法です。軽量でローコストな薄層土壌で緑豊かな緑化基盤を創出します。



空気を育む

●エコスムージー

一般の加熱アスファルト混合物と比較して、製造温度や施工温度を30℃程度低くする技術です。製造時の混合温度を下げることでCO₂の排出量を削減し、地球温暖化の防止に貢献します。



●スラリーバック

流動性に富んだスラリー状の常温硬化型路面補修材です。適時に採用することで舗装のライフサイクルを延長し、舗装工事に伴い排出されるCO₂の低減に貢献します。



●ハイシールJ

半たわみ性舗装で橋梁ジョイント付近の排水性舗装を補強する工事の施工時間を短縮する新材料です。施工時間の短縮によりCO₂の排出量の低減に貢献します。



時代を育む

●OGP工法

最新の情報化技術を取り入れた舗装の施工と品質管理の総称です。GPSやゾーン回転レーザ等を用いた位置情報を用いて正確で安全な施工を実現します。



●IH式舗装撤去工法

電磁誘導加熱によって橋梁の鋼床版とアスファルト舗装の境界面を加熱し、舗装の撤去を容易にします。鋼床版を傷つけることが少なく、騒音・振動・粉塵などの発生を抑制します。



●αシステム

衝撃加速度測定装置とGPSを組み合わせて、締め固めの全数管理を可能にします。



人間尊重の経営を行います

安全衛生方針

強い意志をもって安全に取り組みます

大林道路の業務で最も大切な「安全」への取り組みをご説明します。

スローガン

私たちは、職場で働く人々や近隣住民の生活を守るため、
『繰返し型労働災害、公衆災害及び交通事故の絶滅』
をスローガンにしています。

安全確保

① 災害率抑止目標

- 度数率0.60以下（全店で休業4日以上の死傷者数6人以下）
- 強度率0.03以下（全店で労働損失日数300日以下）

② 安全目標

- 不安全状態・不安全行動による労働災害の防止
- 車両系建設機械及び車両による労働災害の防止
- 交通事故の防止
- アスファルト混合所での労働災害の防止
- 公衆災害の防止

③ 衛生目標

- 職業性疾病（特に熱中症）の防止
- 社員の健康状態の把握
- 協力会社従業員の健康診断の徹底と健康状態の把握

目標達成のための具体的実施事項

- ① 災害事例を活用して災害防止を図っています。
- ② 不安全行動を見たら互いに声を掛け合って注意しています。
- ③ リスクアセスメントを取り入れたATKY活動を実施しています。
- ④ 重機周辺への立入禁止と誘導員の配置を徹底しています。
- ⑤ 重機に後方感知装置などを取り付けています。
- ⑥ バックホウKYカードの手渡し運動を行っています。
- ⑦ 新規入場者一週間安全チェックを行っています。
- ⑧ 安全運転6つのお願い運動を行っています。
- ⑨ 埋設物標識や昇り旗を使用し公衆災害の防止に努めています。
- ⑩ 「熱中症未然防止の点検表」による体調管理を徹底しています。



新規入場者一週間安全チェックカード

安全衛生活動

事業場ではそこで働く人々の安全を守るため、「計画、実施、評価、改善」を柱とした「労働安全衛生マネジメントシステム（OHSMS）」を基本にしています。

- ① 中央安全衛生委員会、地方安全衛生協議会で安全衛生方針、安全目標、目標達成のための具体的実施事項を盛り込んだ安全衛生対策要綱（項）を策定しています。



- ② 支店単位で毎年安全大会を実施し、安全意識の高揚を図っています。



- ③ 安全パトロールを実施し、職員の安全に対するOJTを行っています。



- ④ 安全ニュースの発行について、業界新聞に取り上げられました。1989年に『みんなの幸せを願って』を合い言葉に第1号が発行されました。平成22年3月で610号を超え、災害発生事例や写真を載せて現場の事故・災害防止に活用しています。



2010年4月14日付
『日刊建設工業新聞』



人材育成・職場環境

社員が安心して働ける環境づくりを目指し、制度や設備の充実を図っています。

教育

人こそ最大の経営資源。自己の成長を実感できる教育の場を提供します。



- 階層別教育は、人材の成長段階にあわせて実施し、個人の成長をサポートします。そして、個人の成長は会社の成長につながっていきます。
- 階層別教育のほか、営業所長研修、CAD講習といった専門教育を実施し、個人の能力を高めます。
- 通信教育制度や特別教育制度を通じ自己啓発や国家資格取得をサポートします。



福利厚生

充実した余暇を過ごし、リラックスできる時間と空間を提供します。

- 勤続10年、20年、30年を迎えた社員にリフレッシュ休暇(1~2週間)の付与と旅行クーポン券を支給しています。
- 自社保有の保養所のほか、リゾートホテルと契約し、余暇のサポートを行っています。
- 2010年より婦人科検診の費用補助制度を新設しました。

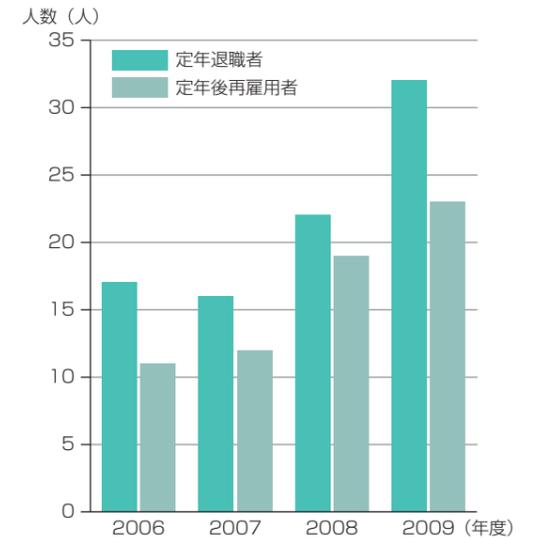


WLB (ワークライフバランス)

社会環境の変化にあわせ、多様な働き方を確保し、仕事と生活の調和を実現します。



- 育児休職は1歳6カ月まで、介護休職は1年まで取得可能。育児休職取得率83% (過去5年、母親のみ集計)、育児休職からの復職率80%となっています。より働きやすい環境づくりを目指していきます。
- 過去4年間の定年退職者87名。うち65名が再雇用されています。これまで培ってきた経験や、知識を活かせる職場を提供します。
- 勤務コース選択制度は、全国勤務コースから地域限定勤務コースへ、または地域限定勤務コースから全国勤務へ、ライフスタイルの変化に対応できるよう、毎年申請可能です。



コミュニケーション

社内のコミュニケーション充実が、「風通しの良い」組織づくりの基本です。

- イントラ版社内報「ふれあいネット」を毎月発行しています。各部門から業務に関する情報提供や、全国の拠点からのお国自慢をはじめ、役員からのメッセージも掲載し、社内のコミュニケーション充実を図っています。



職場環境

働きやすい環境を目指し、全国の拠点の建て替えを進めています。



徳島営業所 2009年9月完成



茨城営業所 2010年1月完成



西山口営業所 船木アスファルト混合所 2010年3月完成



大林道路の事業

大林道路の事業内容、工事事例、財務状況などを紹介します。

大林道路は、1933年の創立以来、道路建設を基軸とした長い歴史に培われた技術により、人々の生活に密着した道路を核に空港・港湾、通信情報施設・下水道、病院・学校、スポーツレジャー施設・公園、工業や商業の各種施設など社会インフラの整備や豊かな生活環境の実現に貢献してまいりました。

最近の主な工事



稚内空港 滑走路舗装その他工事
(北海道 2009年12月竣工)



両石地区舗装工事
(岩手県 2010年3月竣工)



平城宮跡歴史公園第一次大極殿院広場
整備工事
(奈良県 2010年3月竣工)



イオン土浦ショッピングセンター新築工事
(茨城県 2009年6月竣工)



H21上尾道路桶川JCT内舗装工事
(埼玉県 2010年3月竣工)

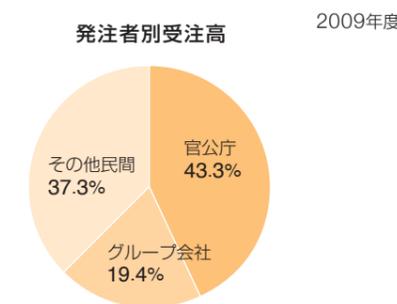
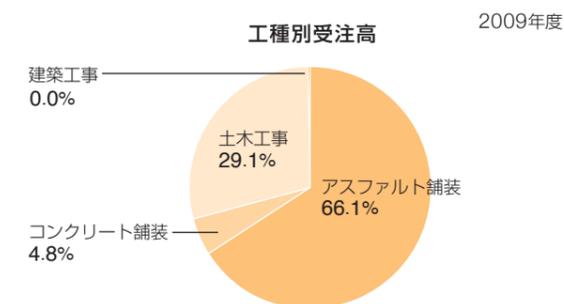
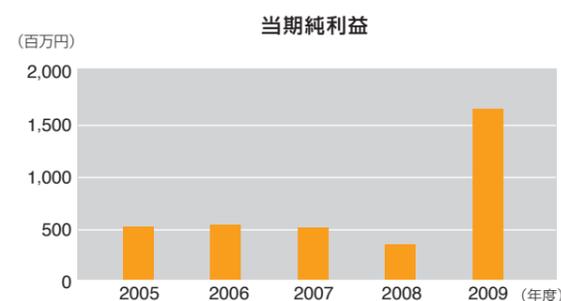
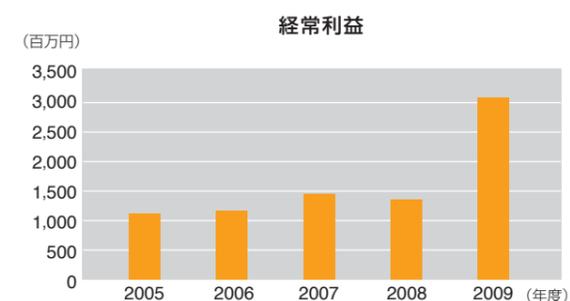
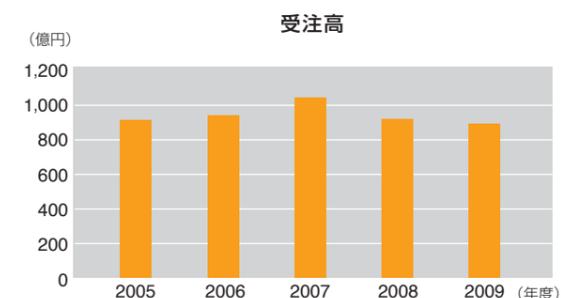


山陰自動車道 出雲舗装工事
(島根県 2010年3月竣工)

会社概要

- 商号 大林道路株式会社
OBAYASHI
ROAD CORPORATION
- 本店所在地 東京都墨田区堤通1-19-9
リバーサイド隅田
セントラルタワー 5F
- 代表者 取締役社長 石井 哲夫
- 創立 1933 (昭和8)年8月26日
- 資本金 6,293百万円 (2010年3月31日現在)
- 従業員数 1,103名 (2010年3月31日現在)
平均年齢 41歳
平均勤続年数 16年
- 株式上場 東京証券取引所市場第一部
- 主な事業領域
 1. 道路工事、舗装工事、造園、敷地造成工事、
上下水道工事その他の土木工事
 2. アスファルト合材等の製造及び販売
 3. アスファルト及びコンクリート廃材の中間
処理業務
- 建設業許可
国土交通大臣許可 (特-19) 第2523号
- 建設コンサルタント登録
建21第4207号 道路部門
- 一級建築士事務所登録
大阪府知事登録 (二) 第15214号
- 宅地建物取引業許可
国土交通大臣 (5) 第4206号

財務状況



株主・投資家の皆様に対して

「利益配分に関する基本方針」

株主各位に対しまして安定的な配当を継続するとともに、財務体質の強化や将来に備えた研究開発、設備投資などを行うために内部留保の充実を図ることを基本方針といたしております。

「情報開示の適切な対応」

法令開示情報の遵守と適時・適切な情報開示に努めるため、四半期開示を行っております。詳細は、ホームページに掲載しております。下記のURLをご参照ください。

<http://www.obayashi-road.co.jp/ir/>

「企業価値の向上」

企業価値の維持と向上のため、ISO9001とISO14001を取得しております。



CSRに関する用語解説

か 環境マネジメントシステム (EMS)
企業や組織が自社の活動による環境への影響をできる限り抑えていくための仕組みのことで、国際規格ISO14001や中小企業向けの規格であるエコアクション21に準拠したものが日本では一般的なものとして挙げられる。企業に対する地球環境問題への取り組みが強く求められる現在、企業における環境マネジメントシステムの導入が進められている。

企業市民 (Corporate Citizen)
企業市民とは、企業を社会の一構成要素とみなし、社会に存在する行政組織、NGOやNPOといった団体、個人など、さまざまな主体とバランスよく連携をとりながら、社会に役立つ事業活動を行っていくべきであるという考え方を指している。

企業倫理 (Business Ethics)
企業の守るべき道徳観のこと。法令で定められた事柄にとどまらず、社会通念、あるべき社会に向け規範となるような姿勢・考えとして企業が確立すべきものとされている。

コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance / 企業統治)
企業の意思決定において、経営者や社員が法令、規則、社会的規範や企業倫理に反する行動を取らないようにすることや、その仕組みを示す。具体的には、企業内外のさまざまな利害関係者相互の関係、利害調整を行う仕組みや経営者に規律を与え監督・監視する仕組みがあげられる。

コンプライアンス (Compliance)
コンプライアンスとは、もともと「規則や要求に従うこと」を意味する「compliance」という英単語からきた言葉である。日本語では「法令遵守」と訳されるが、CSRに対する期待が高まりつつある現在、法律や明文化されたルールに限らず、社会一般的な道徳や常識も反映させた企業倫理や行動規範の遵守も含めて考えられるのが一般的である。

さ ステークホルダー (Stakeholder)
企業の利害関係者のこと。企業活動に関わる顧客市場、調達市場、人材市場、金融市場、社会などに属する個人や集団を指す。

な 内部統制
内部統制とは一般に企業の内部において、違法行為の監視、健全な組織の運営を目的として、そのプロセスを標準化、文書化して、管理・監視・保証を行うことである。

は 品質マネジメントシステム (QMS)
品質マネジメントシステムは企業などの組織が製造物や提供されるサービスの品質を管理監督する仕組みである。品質管理を中心とした組織の活動で、顧客満足を達成し継続的な改善を意図している。

ら 労働安全衛生マネジメントシステム (OHSMS)
組織(事業場)の「労働安全衛生方針」を明らかにし、組織体制、計画策定、手順などを含むマネジメントシステムで、PDCAサイクルを回し、掲げた目標を達成、さらにはそのパフォーマンスを継続的に改善していく仕組みである。

わ ワークライフバランス (Work-Life Balance)
働く人々が、仕事と私生活をバランスよく両立することにより、仕事の生産性と生活の質を向上させるという考え方である。少子高齢化が急速に進む中、子育てと仕事の両立支援という側面から注目を集めているが、これに限らず仕事と家庭、仕事と勉強など、さまざまな対象が考えられる。

B BCP (Business Continuity Plan)
事業継続計画と訳される。自然災害やテロなどの不測の事態において、企業の事業継続をはかるための方針や手続きを示した計画(文書)のことである。このようなさまざまなリスクに対して迅速かつ効果的に対処し、事業活動の継続性を確保するための戦略的な運営管理手法である。

C CSR (Corporate Social Responsibility / 企業の社会的責任)
社会が企業に対して抱く法的、倫理的、商業的もしくはその他の期待に対して照準をあわせ、すべての鍵となる利害関係者の要求に対してバランス良く意思決定することである。利潤追求のみならず社会問題に配慮した取り組みを行う企業は古くから存在するが、「社会からの期待」と「すべての利害関係者」という2点が近年の議論の特徴である。

CSR報告書
企業の環境の側面と社会的な側面における方針や取り組みなどの情報を、幅広くステークホルダーに開示するために企業が発行する報告書で、持続可能性報告書や社会・環境報告書も同種のものと考えられる。CSRの取り組みに対する注目が高まる現在、CSR報告書はステークホルダーへの説明責任を果たす上で重要なツールの一つであり、発行企業は年々増加している。

I ICT (Information and Communication Technology / 情報通信技術)
ICTとは、情報・通信に関連する技術一般の総称である。従来ひんぱんに用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられる。IT (Information Technology)の「情報」に加えて「コミュニケーション」が具体的に表現されている点に特徴がある。ICTとは、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現であるといえるもので、「IT」に替わる表現として日本でも定着しつつある。

ISO9001
ISO9001は品質マネジメントシステム(QMS)を確立するための要求事項が規定されている品質管理及び品質保証のための国際規格である。信頼のおける品質システムを組織内部に構築することによって、顧客満足を得ることを目的とした規格になっている。

ISO14001
ISO14001は、企業などの組織が環境マネジメントシステム(EMS)を構築するための要求事項を規定した国際的な規格であり、環境マネジメントシステムにおいて、世界的にもっとも認知されている規格である。システムを導入した企業は、第三者の審査を受けることにより、認証を取得することが可能であり、環境への対応の重要性が高まる中、多くの企業がこれに基づくシステムの導入・認証を進めている。

事業所一覧

● **本店**
〒131-8540
東京都墨田区堤通1-19-9
Tel 03-3618-6500

● **関東支店**
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-20
Tel 03-3296-6680

● **大阪支店**
〒530-0047
大阪市北区西天満1-2-5
Tel 06-6360-7110

● **北海道支店**
〒060-0001
札幌市中央区北一条西2-9
Tel 011-241-1828

● **東北支店**
〒980-0014
仙台市青葉区本町2-5-1
Tel 022-225-4437

● **北信越支店**
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山1-5-6
Tel 025-243-6807

● **中部支店**
〒460-0002
名古屋市中区丸の内2-18-25
Tel 052-222-5161

● **中国支店**
〒730-0051
広島市中区大手町4-1-1
Tel 082-243-1966

● **九州支店**
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-1
Tel 092-432-0884

● **四国支店**
〒760-0007
高松市中央町11-11
Tel 087-833-3729

● **技術研究所**
〒204-0011
東京都清瀬市下清戸4-640
Tel 042-495-6800

● **機械センター**
〒346-0035
埼玉県久喜市清久町6-5
Tel 0480-23-6100

編集後記

最後まで当社のCSR報告書をお読みいただき、ありがとうございました。当社は、企業理念を常に念頭に置きCSR活動を行っています。各編集委員は、その活動をできるだけわかりやすく、そして限られた誌面の中、皆様方にかにご理解いただけるかを第一に一所懸命に練り上げました。しかしながら、まだまだ至らぬ点やご指摘があるかと思えます。ぜひ、お読みいただいた感想を頂戴できれば幸いです。

2010年10月

